

■全日本大学選手権1回戦の見どころ

北海道の学生フットボーラーの悲願である甲子園ボウル（12月17日）を目指す戦いがいよいよ始まる。全日本大学アメリカンフットボール選手権の1回戦、北海道大―名城大（東海地区代表）戦が11月11日正午、岐阜市の長良川球技メドウでキックオフする。勝てば、19日に2回戦の東北大（東北地区代表）、準決勝は12月3日に甲子園切符をかけて関東地区代表と激突する。関学大OBの降梁（さげはり）祐介HCの指導で守備力が飛躍的にアップした北海道大が、全日本選手権の初勝利とその先の快進撃を目指す。リーグ戦のデータをもとに見どころと注目選手を探ってみた。

□パスの北海道大

北海道学生選手権（秋季リーグ）を、不戦勝1試合を含む5戦全勝で制した北海道大。実戦4試合で1692ヤードを獲得し、169得点を挙げた。総獲得距の72%にあたる1212ヤードをパスで稼ぎ、17TD、102得点がパスによるものだった。初戦で3年生QBが負傷した後は、2年生QBの神田智史（東京・麻布高）が1人で投げまくり、1104ヤードを獲得し14TD。109回のパスプレーで、インターセプトはわずかに4回という安定したパッシングを見せた。

受け手はリーグ戦MVPになったWR宮崎大地（4年、兵庫・星陵高）が28回捕球で598ヤード、7TD。釧路公立大戦では、自陣で捕球してから、そのままエンドゾーンまで力走する84ヤードのビッグキャッチ。優勝決定戦となった北海学園大戦ではエンドゾーン左隅で捕球するピンポイントキャッチも披露し、QB神田と息の合ったプレーを見せつけた。宮崎がマークされると、WR日高耀（4年、福岡・北筑高）が12回、237ヤード、5TDと活躍し、WR陣の層の厚さを見せた。

パッシング攻撃を支えたOL陣も忘れてならない。C森川太陽（2年、愛知・刈谷高）、G依田柁基（3年、愛知・海陽中等校）、G福山晋平（4年、千葉・昭和学院秀英高）、T羽仁高滉（3年、東京・学芸大付属国際高）、T吉田晴太（4年、札幌北高）が鉄壁のパスプロテクションでQB神田を守り、そろってリーグ戦のベストイレブンに選ばれた。

ランプレーではRB榊琢也（4年、札幌東高）が34回のキャリアで269ヤード、3TDと確実な走りを見せた。

固い守りも今年の特徴だ。リーグ戦の総失点は4試合でわずかに19点、合計喪失ヤードは751ヤード。1試合平均ではランで95.3ヤード、パスで92.5ヤードを許しただけ。劇的に試合の流れを変えるインターセプトは11回。LB鯨井雅生（4年、埼玉・川越東高）が毎試合の6回、DB渡部健人（4年、東京・暁星高）が2回。優勝決定戦の北海学園大戦でもこの2人が1回ずつ決めて、北海学園大の反撃を絶った。関学大でDBを務めた降梁HCの指導がさっそく成果を見せた形だ。

DL浅井聡太（4年、東京・都立西高）とDL古家瑳斗留（2年、茨城・江戸川学園取手高）もQBサックで、圧力をかけた。

□ランの名城大

名城大は東海学生リーグを5戦全勝で制し、3年ぶり21回目の優勝と5年ぶり8度目全日本大学選手権出場を決めた。部員数は52人で、北海道大とほぼ同規模。戦いぶりを見ると、名古屋大に21-20、名古屋工業大に40-7、中京大に22-20、信州大に31-7、岐阜大に35-10でした。ライバルの中京大、名古屋大を接戦で下した勝負強さが光る。

5試合の総獲得距離は1428ヤードで、ランが788ヤード、パスが659ヤード。21TDの内訳はランが14回、パスが4回、パントリターン1回、インターセプトリターン1回、ファンブルリターン1回。

ランの主役はRB松田吟（2年、神奈川・横浜栄高）。中京大戦の1TD、名古屋大戦の2TDを含む7TDランで攻撃を牽引した。名古屋工業大戦では66ヤードのビッグランも見せた。QB栗本健太郎（4年、岐阜・県立岐阜商業高）も、名古屋大戦で10ヤードのキープで同点TDを決めている。

数字の上ではランプレーが中心だが、優勝決定戦となった中京大戦ではQB栗本からTE大石雄大（3年、愛知・愛知工業大名電高）へ先制の11ヤードと、勝ち越しの33ヤードTDパスを決めて試合の主導権を握った。TE大石は岐阜大戦で80ヤードのパントリターンTDも決めている。中京大戦で43ヤードのFGを決めたK/D B野田朝日（1年、愛知・日本福祉大付属高）も要注意だ。

守備は5試合の総失点が64。5試合の合計喪失ヤードはラン678ヤード、パス408ヤード、合計1090ヤード。1試合平均ではランで135.6ヤード、パスで81.6ヤードを許している。

□鍵はビッグプレーか

ラン攻撃主体の名城大とパス攻撃に自信を持つ北海道大だが、互いの得意プレーを封じようと、試合は守備合戦になるかもしれない。インターセプトやファンブル、QBサックなどで先に勢いをつかんだ方が、有利になるのは間違いない。北海道大のDL、LB、DB陣にまずは期待。WR宮崎のキックオフリターンも楽しみだ。

■無料ライブ配信について

全日本学生選手権は、11月11日の1回戦から、rtvとUNIVASでライブ&アーカイブ配信される。ともに無料。アドレスは以下の通り。

【rtv】

<https://live.amefootlive.jp/lives/d4e8b49f-5f57-41d5-a6ed-747be2d48ebf>

【UNIVAS Live】

<https://univas.jp/enjoy/univas-live/>